

# にしあさけ



四日市市立西朝明中学校

令和2年度卒業特別号  
令和3年3月8日(月)

## 卒業おめでとう

卒業生の皆さん、先ほど一人一人にお渡しした卒業証書は、中学校の課程を修了し、9年間の義務教育を終えた証です。そして、社会をつくっていく一員として必要な基礎となる力を積み上げてきた努力を称えとともに、四月からの新たなステージでそれぞれの持つ個性や能力を伸ばし、より大きく成長されることを期待する表でもあります。皆さんの将来にかかる重要な証書です。大切にしてください。

## 人の命は、大切であり、かけがえのないもの

皆さんが中学三年生として過ごしたこの一年は、未知なる新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界中が翻弄された歴史に残る大変な一年となりました。世界での感染者は一億人を超え、亡くなった方は250万人を超えています。今も世界の国々が、外国からの入国を規制したり、都市を封鎖したりして、人々の移動や行動を制限し、感染の拡大を封じ込めようとしています。

私たちの生活においても、密集・密接・密閉、いわゆる「三密」を避けること、「マスクの着用・手洗いの励行や手指消毒・ソーシャルディスタンスの確保」といった新しい生活様式が求められ、「昼食は一列で静かに食べる」、「授業中でもグループでの実験や実習、話し合いを避ける」など、これまで当たり前に行ってきた学校での生活の仕方や学習の進め方も変えなくてはいけませんでした。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の問題を克服し、安全で安心な暮らしを取り戻すために必要とされる技術の革新は、この一年間に十年分が一気に進んだと感じさせるほど、そのスピードは速まってきています。

その一例がワクチン開発です。一般的にワクチンの開発には、7～8年の年月が必要とされていました。新型コロナウイルスのワクチンは、これまで研究開発してきた技術を応用することで、最初の感染確認からワクチンが承認されるまで約一年という、これまでに例のないスピード開発を成し遂げ、日本でも医療関係者への接種が始まっています。

人間は、これまでの歴史の中で、どんな困難なことに出会っても、決して諦めたりせず知恵を絞り、科学の力を発展させ、問題を解決してきました。未知なるものに対応するため、新しい技術を創造したり、社会の在り方を変えたりすることは、大変な努力と時間を要する取り組みにもかかわらず、新型コロナウイルス感染拡大という世界規模の問題に対し、少しでも早い解決に向け、多くの人の意欲を掻き立て、行動を突き動かす原動力は、「人の命は、大切であり、かけがえのないものである。」という誰もが疑いのない世界共通の価値観に尽きると思います。

医療関係者の皆さんは、感染リスクと向き合いながら、「一人でも多くの命を救いたい」という強い気持ちで医療や対応を続けています。私たちも「大切な人の命を守りたい」という切なる願いをもって行動制限をしています。一日も早い、新型コロナウイルスの収束を願うところです。

## 超スマート社会の到来

日本では、すでに産業や社会の様々な分野での技術革新が進められていましたが、この新型コロナウイルス感染拡大を契機に、感染リスクを低減させるために、リモートで仕事を行う在宅勤務や、オンライン上での会議

が当たり前のように広がってきています。また、学校でも、いつでもオンライン学習ができるよう、皆さん一人一人にタブレットパソコンが配付され、AI型ドリルも数学の授業で使えるようになりました。

私たちの身近なところでも、社会のデジタル化が進んでいることから分かるように、すべての人が快適に暮らせる超スマート社会の実現は、思っていたより早く到来しそうです。

この新しい社会の実現は、これまで当たり前とされていた日本社会の常識や価値観を大きく変容させていくものと考えられています。大きく変化していく近未来の社会の中で、皆さんが幸せに暮らしていくためには、急激な変化に対応できる柔軟な考え方や、新しい価値や違った考え方を受け入れることができる多様な考え方を身に付けていることが必要です。皆さんには、これからも学び続ける人であって欲しいと思います。

しかし、超スマート社会の実現は、手段であり、目的ではありません。目的は、あくまでも平和で誰もが安心して幸せに暮らせる持続可能な世界をつくることであり、一人一人が大切にされる社会の実現を目指すものです。

人間は大きな問題に出会う度に、これまでの取り組みを見直し、新たなよりよい方法を求めながら歩みを進めてきました。新型コロナウイルスを克服した後の社会は、一人一人が大切にされる、よりよい方向に変わっていることでしょう。

### 「みんなで楽しむ」、「みんなで創る」

5月25日の学校再開にあたっての挨拶で、皆さんに「学校に通えるという時間を大切に過ごして欲しい」とお願いしたことを覚えているでしょうか。

皆さんの中学校最後の体育祭・修学旅行・文化祭は、感染防止対策の必要性から、内容を変更したり、規模を縮小したりと、限られた時間と条件の中での実施となりました。

皆さんは、この限られた時間と条件の中で、「みんなで楽しむ」ために、例年通りでない現状を受け入れ、まず、「自分自身が楽しく過ごすためにどう取り組んだらいいのか」を前向きに考え、そして、「他の人と一緒に楽しむためにどうすればいいのか」といった他者への関心や思いやりの心をもちながら活動を進めてくれました。また、「みんなで創る」ために、それぞれの思いや違った考えを受け入れ、互いを尊重し、協力し、支え合いながら活動を進めてくれました。

皆さんが、「みんなで楽しむ」、「みんなで創る」をテーマに一年を通して学校に通えるという時間を大切にし、充実した時間を過ごしてくれたこと、大変嬉しく、そして、誇りに思っています。

### 未来の社会を拓く皆さんへ

新型コロナウイルス感染拡大の問題は、「これまで通り」が通用せず、私たちの暮らしや学校生活に大きな制限を与えました。しかし、改めて「命の大切さ」について考える機会や「平和で誰もが安心して幸せに暮らせる持続可能な社会の在り方」についても考えを深める機会を与えてくれたものと考えます。

どうか、皆さん、心の底には「人の命の大切さ」を据え、「自分を大切に」、そして同時に「人を大切に」しながら、四月からの新たなステージで、この西朝明中学校で取り組んだ「みんなで楽しむ」、「みんなで創る」という経験をもとに、自信をもって自分を表現し、それぞれの個性や可能性を伸ばしてください。西朝明中学校で学んだこと、経験したことは、大きく変化する近未来の社会で、幸せな暮らしをつくろうとする皆さんの支えとなるものと信じています。

令和三年 三月 八日

四日市市立西朝明中学校

校長